滋賀県の地震

令和 8 年(2026 年)10 月

目　次

1　滋賀県の地震活動

(1)震央分布図 ---------- 1
(2)概況 ---------- 1
(3)断面図 ---------- 2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表 ---------- 3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図 ---------- 3

2　琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図･時空間分布図･地震活動経過図 ---------- 4
(2)概況 ---------- 4

3　地震一口メモ

滋賀県とその周辺の活断層について　～三方断層帯･花折断層帯～
---------- 5

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。
「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。
本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142)」にお願いします。

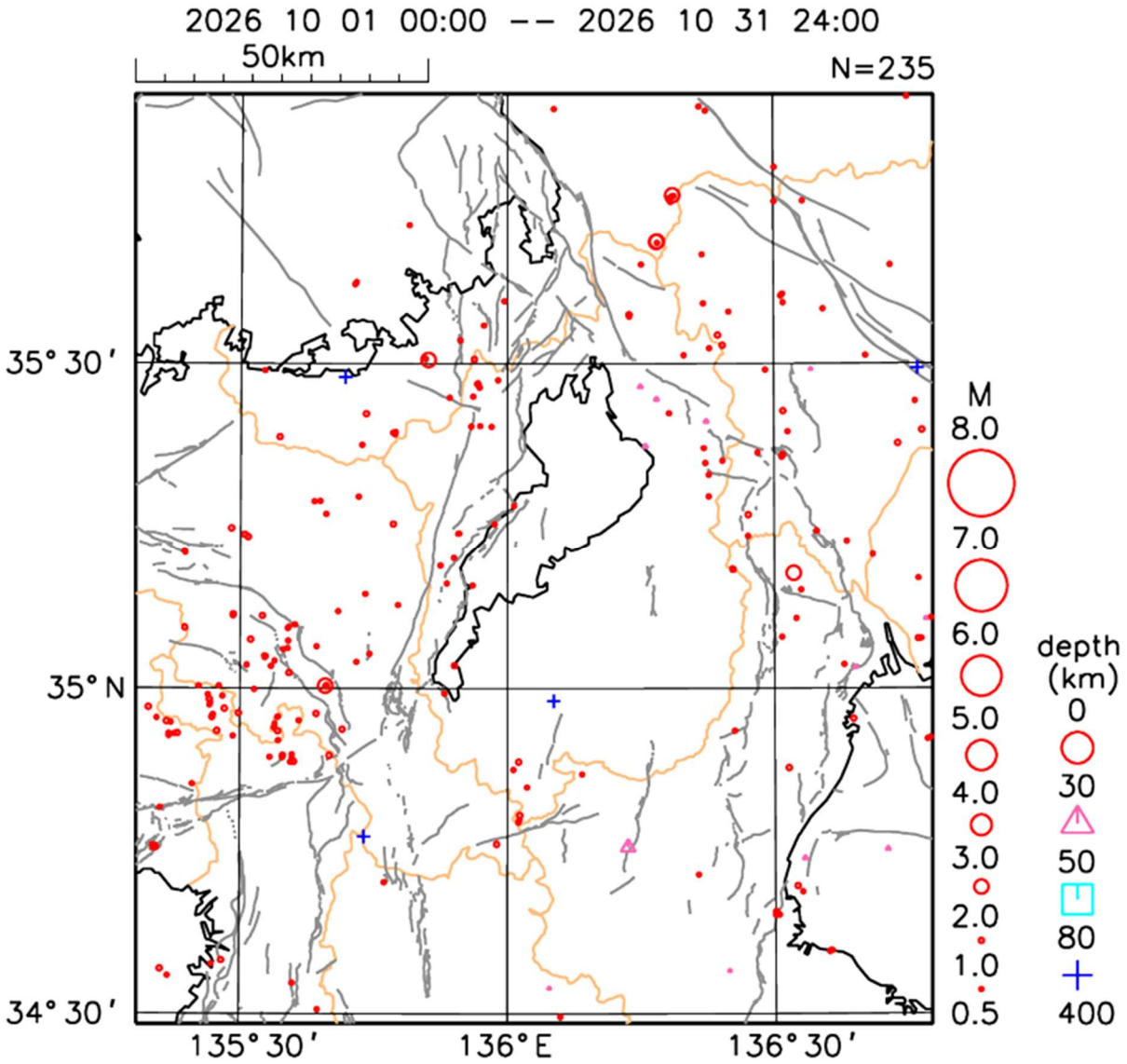
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。
また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。
https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html
本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震･津波･火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。
https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html

彦根地方気象台

１　滋賀県の地震活動（令和８年 10 月）

（1）震央分布図

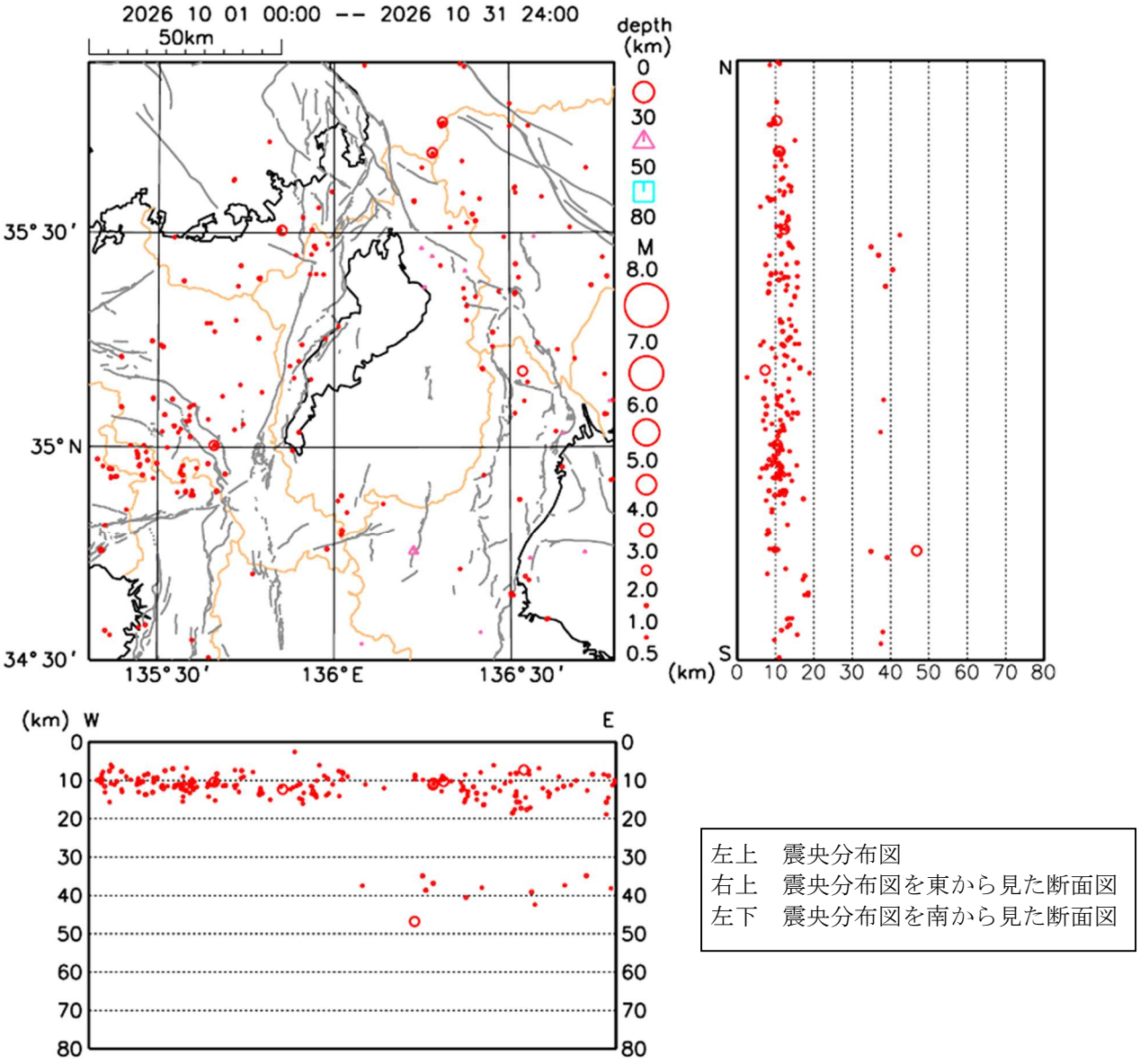


震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。
シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模（マグニチュード）」、形状により「震源の深さ（km）」を表現しています。マグニチュード（M）とシンボルマークの大小、震源の深さ（depth）とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。
図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。
滋賀県で震度１以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています（最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません）。
震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

（2）概況

10 月に震央分布図の範囲内における M2.0 以上の地震は 11 回（前月 15 回）でした。滋賀県内で震度１以上の揺れを観測した地震はありませんでした（前月０回）。

（3）断面図（深さ 80km までの地震）



左上　震央分布図
右上　震央分布図を東から見た断面図
左下　震央分布図を南から見た断面図

【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

（４）滋賀県で震度１以上を観測した地震の表

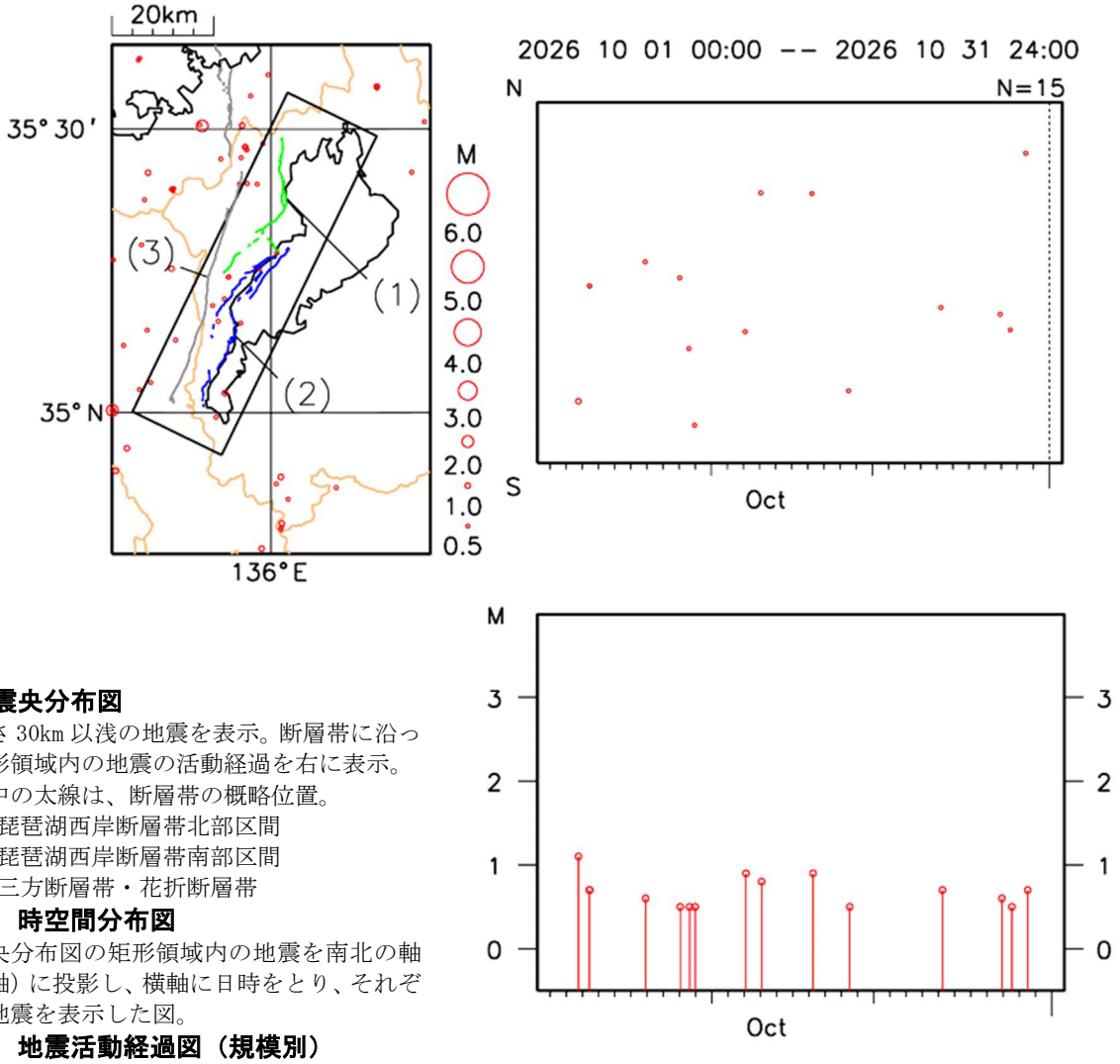
10 月に滋賀県内で震度１以上の揺れを観測した地震はありませんでした。

（５）滋賀県で震度１以上を観測した地震の震度分布図

10 月に滋賀県内で震度１以上の揺れを観測した地震はありませんでした。

２ 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動（令和８年 10 月）

（1）震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図（深さ 30km までの地震）



（上）震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。

（1）琵琶湖西岸断層帯北部区間
（2）琵琶湖西岸断層帯南部区間
（3）三方断層帯・花折断層帯

（右上）時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸（縦軸）に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

（右下）地震活動経過図（規模別）

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市マキノ町石庭（いしば）から大津市三井寺（みいでら）町付近に至る断層帯です。全体として長さは約 55km と推定され、北北東－南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、北部区間と南部区間の２つの区間に分かれて活動すると推定されますが、断層帯全体が １つの区間として同時に活動する可能性もあります。

琵琶湖西岸断層帯北部区間では、全体が１つの区間として活動する場合、M7.3 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内の発生確率は 3～14%と推定されます。

琵琶湖西岸断層帯南部区間では、全体が１つの区間として活動する場合、M7.4 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内の発生確率はほぼ 0%と推定されます。

（地震調査研究推進本部による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2026 年１月１日。）

（2）概況

10 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は０回（前月０回）で、同領域内の地震で震度１以上の揺れは観測されませんでした。

３ 地震一口メモ

滋賀県とその周辺の活断層について　～三方断層帯・花折断層帯～

滋賀県とその周辺の活断層について、今回は三方断層帯・花折断層帯について紹介します。（地震調査研究推進本部による評価（令和８年８月 28 日公表）を紹介します。）

三方（みかた）断層帯は、福井県三方（みかた）郡美浜（みはま）町沖合の若狭湾から三方上中（みかたかみなか）郡若狭（わかさ）町に至る断層帯です。全体として長さは約 27 km の可能性があり、ほぼ南北方向に延びる、断層の東側が西側に対して相対的に隆起する逆断層です（図１、図２－１）。

花折（はなおれ）断層帯は、滋賀県高島市今津（いまづ）町杉山から京都市左京区の吉田山付近に至る断層帯で、南端付近では京都盆地－奈良盆地断層帯北部に近接します。全体として長さは約 48 km と推定され、北北東－南南西方向に延びていますが、過去の活動時期の違いから、花折峠付近を境に北部と南部の２つの区間に細分されます。北部区間と南部区間は共に右横ずれを主体とする横ずれ断層です（図１、図２－２）。

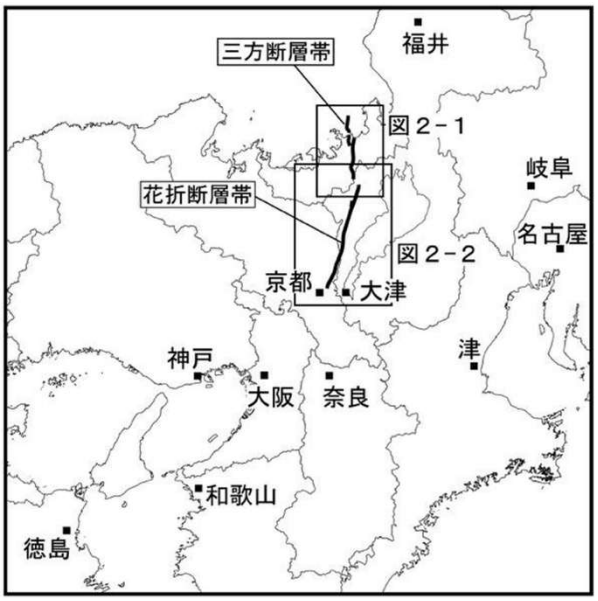


図１　三方断層帯・花折断層帯の概略位置図
（長方形は図２－１、図２－２の範囲）

出典：「三方断層帯・花折断層帯の長期評価（一部改訂）」（地震調査研究推進本部）
（https://www.jishin.go.jp/main/chousa/26aug_chi_kinki/kinki_25_mikata_hanaore.pdf）

断層帯の過去の活動

三方断層帯の最新活動は 1662 年の寛文近江・若狭地震と推定されます。その際に三方湖付近では断層の東側が相対的に隆起するずれや撓（たわ）みが生じ、その量は断層両側の幅の広い範囲にわたって合計で２－４ｍ程度に達した可能性があります。なお、この地震では、花折断層帯の北部区間も同時に活動した可能性があります。

花折断層帯は、過去の活動履歴などから、北部区間と南部区間の２つに区分されます。花折断層帯北部区間の最新活動時期は 15 世紀以後、17 世紀以前と推定されます。寛文近江・若狭地震で三方断層帯と共に活動した可能性があります。花折断層帯南部区間の最新活動時期は約２千７百年前以後、１世紀以前であったと推定されます。

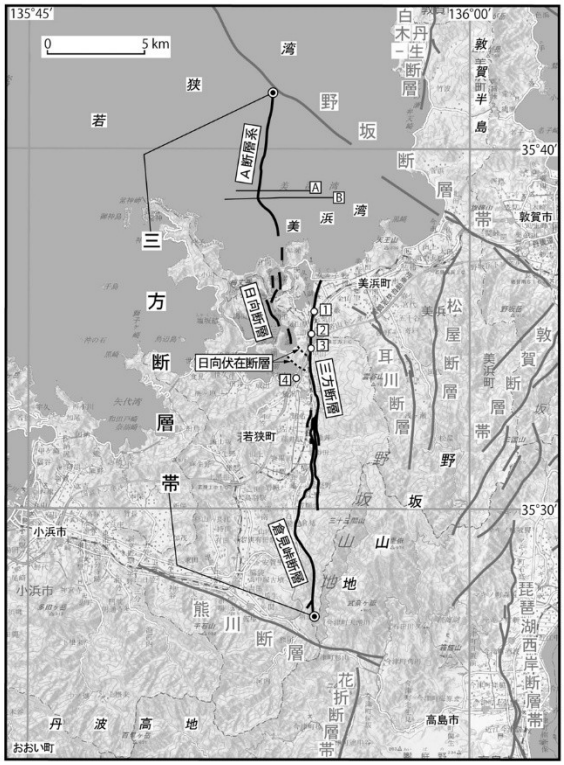


図２－１　三方断層帯の活断層位置と主な調査地点
１：久々子地点　２：気山地点　３：中山低地地点　４：鳥浜・生倉地点
Ａ：音波探査断面（文献 13、14）　Ｂ：音波探査断面（文献６）

◉：断層帯の北端と南端
基図は国土地理院発行電子地形図 20 万「宮津」、「岐阜」を使用。

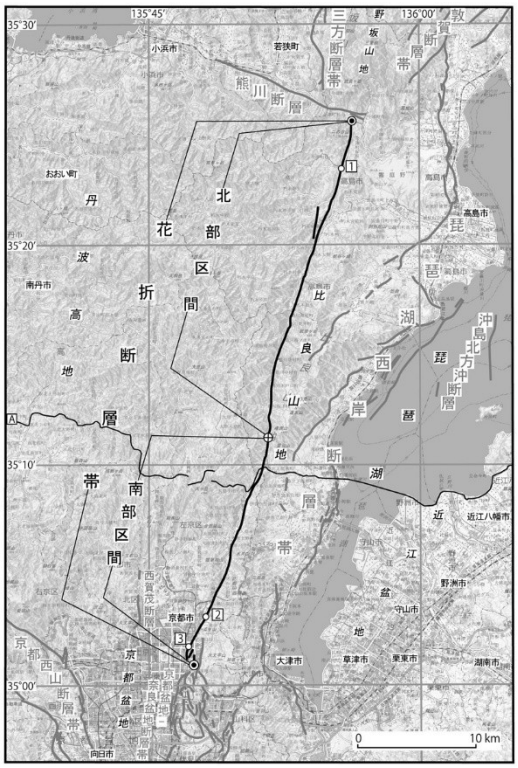


図２－２　花折断層帯の活断層位置と主な調査地点
１：途中谷地点　２：修学院地点　３：今出川地点　Ａ：音波探査断面（文献 12）

◉：断層帯の北端と南端　⊕：花折断層帯の北部区間と南部区間の境界
基図は国土地理院発行電子地形図 20 万「宮津」「岐阜」「京都及大阪」「名古屋」を使用。

出典：「三方断層帯・花折断層帯の長期評価（一部改訂）」（地震調査研究推進本部）
（https://www.jishin.go.jp/main/chousa/26aug_chi_kinki/kinki_25_mikata_hanaore.pdf）

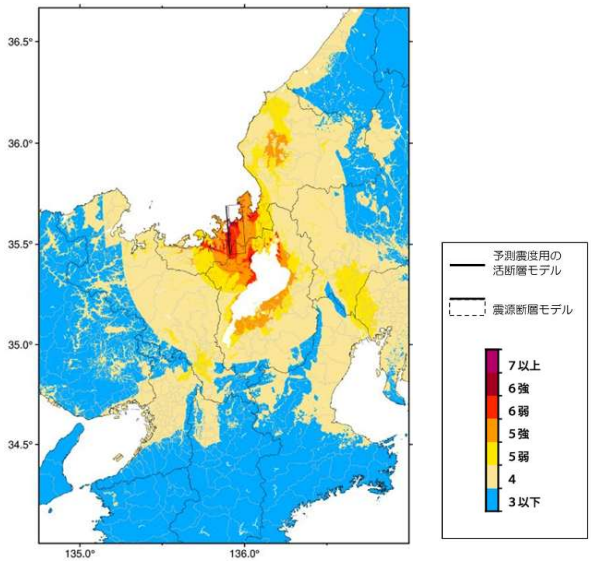
断層帯の将来の活動

三方断層帯では、断層帯全体が１つの区間として活動し、マグニチュード（M）7.2 程度の地震が発生する可能性があります。今後 30 年以内の地震発生確率は、ほぼ０％、Ｚランク※1 に属します（地震が起こらないという意味ではありません。活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示しています）。

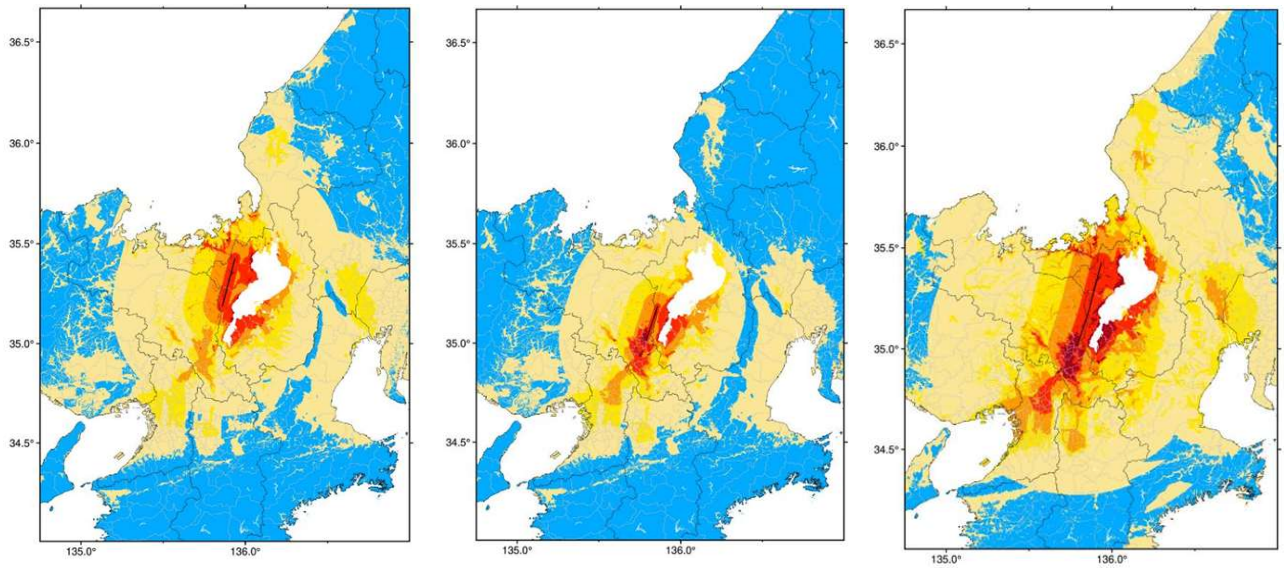
花折断層帯は、最新活動と同様に２つの区間に分かれて活動すると推定されます。北部区間と南部区間の２つに分かれて活動する場合、北部区間ではM7.2 程度の地震が発生する可能性があり、南部区間ではM7.0 程度の地震が発生する可能性があります。南部区間の今後 30 年以内の地震発生確率は、ほぼ０％－0.3％、Ａランクに属します。北部区間は平均活動間隔が不明なため、将来の地震発生確率を求めることはできません。断層帯全体が同時に活動する場合の地震発生確率を求めることはできませんが、断層帯全体が同時に活動する場合の地震発生確率は、南部区間が単独で活動する場合の地震発生確率を超えることはないと考えられます。

図３は、上記のような地震が発生した場合に予測される、活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

※１：活断層における今後 30 年以内の地震発生確率が 3%以上を「Ｓランク」、0.1～3％未満を「Ａランク」、0.1%未満を「Ｚランク」、不明（過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難）を「Ｘランク」と表記している。地震後経過率※2が 0.7 以上である活断層については、ランクに「＊」を付記している。Ｚランクでも、活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示す。
※２：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると 1.0 となる。



三方断層帯



花折断層帯 北部区間　　花折断層帯 南部区間　　花折断層帯 北部区間　南部区間 同時活動

図３ 予測震度分布（簡便法）

強い揺れになる地域の広がりの目安を示したものです。実際は予測よりも大きな揺れになることがあります。

出典：「近畿地域の活断層の長期評価（第一版）」 で評価対象となった活断層で発生する地震の予測震度分布（簡便法計算結果）（地震調査研究推進本部）（https://www.jishin.go.jp/main/kyoshindo/yosokushindo/20260828_kinki_shindo.pdf）

地震調査研究推進本部HP 「琵琶湖西岸断層帯の長期評価(一部改訂)」
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/26aug_chi_kinki/kinki_25_mikata_hanaore.pdf
地震調査研究推進本部HP 「地震発生確率」について解説します
https://www.jishin.go.jp/resource/column/column_24spr_p06/